

北朝鮮の最後の賭け：核兵器と弾道ミサイル

漢和防務評論 20180106(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

今日の漢和の記事は、北朝鮮制裁をめぐって米中が重大な譲歩をしたのではないか、と疑っています。重大な譲歩とは台湾問題です。衛星写真を見る限り、北朝鮮軍の通常兵力は燃料欠乏のため、最小限の訓練しか行っていない、と推測しています。

本誌編集部

北朝鮮の軍事力は、朝鮮半島情勢に影響を与えるだけでなく、国際的な問題として、すでに地域の戦略バランスに重大な影響を与えるようになった。

中、米は、北朝鮮問題で外交、軍事、政治上の重大な取引を行った可能性が極めて高い。したがって習近平は、今年、米国が求めた経済制裁に対して最大限の譲歩を行った。ワシントンは、基本的に満足し、これがトランプ大統領の対中、対台湾政策変更の基礎になった、と思われる。

北京がワシントンに譲歩を重ねたことは、ワシントンが台湾問題で中国と政治的取引を行った可能性が極めて高い。米国は、なぜ中露が安保理に提出した北朝鮮制裁の折衷案に妥協したのか？中露双方は、現在の情勢について次のように考えた：おおよそ 30%の石油供給量削減は可能であるが北朝鮮政権を完全に沈没させてはならない。なぜなら新たな核拡散、弾道ミサイル技術拡散の問題が出てくるからである、と。モスクワの複数の外交消息筋は、**KDR** に対し何度も述べた：モスクワは、北朝鮮の安定を維持することが重要であると思う。”北朝鮮の崩壊は最良の決着方法とは言えない”、と。見るところ、米国はモスクワと北京に対し共同歩調をとっている。留保しつつも理解ある態度を採っている。新たな問題とは：一旦北朝鮮政権が崩壊した場合、核兵器、弾道ミサイル技術はどのように管理すべきか？である。軍事的に見て、現実的一面は：北朝鮮はすでに核兵器と戦略ロケット部隊に完全に依存している。通常兵器の海空軍、膨大な陸軍装甲部隊は見せかけに過ぎない。衛星写真から見えることは、上述の通常兵力は、最小限の訓練しか行っていない。この点は、極めて重要な判断材料である。

KDR の分析では：北朝鮮空軍は、国境沿いに飛行する **B-1B**、**F-15C** を撃墜する能力はすでに喪失している。衛星写真を分析すると：現在の北朝鮮防空軍の地対空ミサイル技術では **200KM** 以遠の作戦機を撃墜することはできないようだ。**S-75**、**S-200** 地対空ミサイルは米軍が相当詳細に研究しており、重大な脅威とはなっていない。射程 **1000KM** 前後の北朝鮮版 **S-300** は、衛星写真では陣地配備が見られなかった。このミサイルは、**2017** 年 **7** 月以前は未だ就役していない可能性がある。

MIG-29 及び **SU-25** を保有する第 **55** 戦闘機団においては、**2017** 年 **4** 月 **22** 日

現在 MIG-29 の可動機はおよそ 8 機である。4 月 10 日は 7 機であった。この時期、たった 1 機だけ飛行したことを意味するのだろうか？そのうちの 4 機は位置が変わらなかった。最新の衛星写真によると：少なくとも 5 機の MIG-29 が塗装を変更した。最後まで保存する戦力であろうか？

2016 年 10 月 4 日の衛星写真によると、6 機の MIG-29 が可動状態にあった。この部隊は、北朝鮮空軍で最も良好な戦闘機団である。この MIG-29 は 1986 年に受領し、機体の年齢は 30 年を超える。しかも大きな改修はなされていない。ロシア空軍の MIG-29 は、この期間 2 度の大改修を行った。ZHUK-M レーダー (MIG-29SMT) と、ZHUK-AE レーダー (MIG-35) への換装である。早期の MIG-29A は、相当旧式の”警笛 3 型”警戒装置を搭載し、一定のロックダウン能力がある早期型 N-019 型レーダーを搭載している。当時でも最良のレーダーとは言えなかった。これらのレーダーは米軍の電子妨害に対抗することはできない。

この他、最大の問題は武器である。北朝鮮は、R-60 型赤外線誘導空対空ミサイルと、R-27 型セミアクティブ・レーダー誘導空対空ミサイルを得ている。これらのミサイルは当時ウクライナで生産されたものである。R-73 を入手した可能性はあるが、記録はない。R-27 及び R-60 のシーカーは、9B1101K 及び 75T と呼称される。これらは早い時期に延命措置がなされている。しかし北朝鮮はウクライナに対し類似の要求は行っていないようだ。したがって KDR は:MIG-29 がたとえ少数機で迎撃したとしても、機関砲以外、武器は何が使えるか？疑問に思う。

当然、無視できないことがある：上述の衛星写真から判断すると、確かに北朝鮮海軍潜水艦部隊、空軍の MIG-23、SU-25、MIG-29 はすでに大規模な活動ができない。しかし極少数機は依然戦備状態にある。このことは石油の禁輸が北朝鮮空軍、海軍潜水艦の活動を完全には止められないことを意味する。

SU-25 の活動を見ると、2017 年 4 月 22 日の衛星写真では 13 機が可動状態にあった。4 月 10 日には 15 機であった。この期間、10 機は飛行可能で、位置が変わっていた。

MIG-23 を保有するのは第 35 戦闘機団である。2016 年 9 月 28 日の衛星写真では 8 機が可動であった。中朝国境に近い新義州空軍基地では、2017 年 6 月 13 日の衛星写真によると、8 機の IL-28/H-5 爆撃機が滑走路に最も近いエプロンに駐機していた。可動機のような。他に 21 機の H-5 は整備がされているかどうか疑わしい。なぜならば、これらの機体は、6 月 13 日から位置が変わっていない。4 月 9 日、エプロンに最も近い滑走路に H-5 が 1 機存在した。別の場所に 3 機あった。KDR が控えめに計算しても H-5 は依然として少なくとも 5 機前後この期間に飛行を行ったかもしれない。

このことは、北朝鮮空軍の作戦機を完全に飛行できなくするためには、現在の石油禁輸措置では不十分であることを意味する。

海軍の潜水艦も状況は同じである。R クラス潜水艦基地の移動状況だけを見ても、2016 年 12 月 19 日 3 艘が港に停泊しており、12 月 8 日は 2 艘、9 月 23 日は 4 艘、5 月 7 日は 4 艘、1 月 12 日は 2 艘、であった。これを見ると、1 年間を通じて 2 艘の R クラスが依然として海上にあった。唯一の弾道ミサイル潜水

艦は、2016年の6回目の衛星写真では活動が見られなかった。
陸軍については、今年、北朝鮮国営通信社が発表した最大規模の機械化砲兵、装甲兵の演習はただ1回のみであった。
朝鮮人民軍建軍85周年期間、海岸の砂浜で大規模な火砲演習を行ったが、戦車を出動させた演習の写真は1枚もなかった。2015年KDRの消息筋は第105戦車師団を訪問した。北朝鮮側は陳列室の見学を許可しただけであり、戦車は見せず、食堂にも入れなかった。兵士は弱々しく、北朝鮮陸軍の戦力が見えた。諸々の形跡から、燃料が逼迫しており、戦略ロケット部隊を最優先にして、次に極めて少数の空軍、海軍部隊に回すような状況が見えてくる。北朝鮮の軍力は、核兵器、弾道ミサイルだけにしか頼れない時代に入った。

以上